

二人の証空上人

高野山大学教授・図書館長 下西 忠

南都の薬師寺に別当職に執着した高僧の話がある。『発心集』に載る説話であるが、修行・学問を通じて培われた人間性がある出来事でそれが見事に喪失してしまう話である。地位や名誉に執着すると来世で地獄に堕ちるといのように信じられていた。

説話全体の構成は次のようになっている。(1) 薬師寺の高僧、証空が別当職(事務を総轄する職)を希望する。(2) 弟子たちは師証空の評価がさがるといことで猛反対する。しかし、証空は聞き入れない。(3) あきらめさせようとして、ある弟子が、空夢を見たとい証空上人に作り話を語る。内容は地位や名誉を望んだ結果地獄に堕ちるといものであった。ところが証空はあきらめどころか、それを歓迎する。地獄に堕ちるといことは、現世で自分の希望(この場合は別当職に就くこと)が叶ったと理解したのである。本文で証空が「耳もとまで笑みまげて」喜んだことを作者長明は「智者なればこそ、律師までものぼりけめ。年七十にて、この夢を悦びけん、いと心うき、貪欲の深さなりかし」と痛烈に批判している。それにしても、いつの世にも自分の都合のいい解釈をする人がいるものだ。

それにひきかえて「高野の証空」はある意味ですばらしい僧かもしれない。『徒然草』にこんなはなしがある。都にのぼる途中、細道で馬に乗った女とでくわした。手綱をひいていた男が、その操作に失敗して上人の馬を堀へ落としてしう。腹をたてた上人は「とんでもない狼藉だ。四部の弟子はなあ、比丘よりは比丘尼は劣り、比丘尼より優婆塞は劣り、優婆塞より優婆夷は劣っている」と講義をし、そして「四部の弟子の上位にいる比丘(出家した男性)を最下位にいる優婆夷(在俗のまま仏教に帰依した女性)が堀へ蹴入るとは未曾有の悪行だ」と言っののしった。男は「何を言っているのかさっぱり理解できません」とい。学問も教養もない男にしてみればもったもなことである。上人はさらに「何を言うか、非修非学の男が」と声を荒立てて言うが、そこでふと我にかえり、はなはだしい放言をしてしまったと反省して上人は馬をひきかえして逃げたとい。けんかの最中に瞬間仏学的講義を持ち出すきまじめな上人と言葉の意味をわからずあつけにとられている無学の男の光景が頭に浮かび、つい私は笑ってしまった。さて、説話の最後で作者兼好は「尊い口論であった」とい趣旨の文章でこの説話をしめくくっていた。みなさんはなぜこの口論が「尊い」のかを考えていただきたい。それにしても説話はおもしろい。おもしろいから後世に語り継がれるのだ。

2013年 9月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2013年 10月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

	9:00-21:30		13:00-21:30
	9:00-17:00		休館日

第3回戸田文化講座 「天野丹生都比売神社本殿 平成のご造替について」

日時: 10月 10日(木)17:00~18:00

場所: 高野山大学本館 3階 308号室

講師: 結城啓司先生

(和歌山県文化財センター技師)

どうぞご自由にご参加ください



第2回 高野山大学図書館戸田文化講座

高野山七口と参詣道について

七月十一日(木曜日)午後五時より

高野山大学三階308号室において

第2回図書館戸田文化講座が開催されま

した。講師は入谷和也先生(元和歌山県教育

委員会教育企画員)

この講座には二十数名の参加者があり、

大変興味深い講座となりました。